




令和 2 年 度

事業報告書

社会福祉法人洛南福社会

総施設長	施設長	施設長
		

令和2年度事業報告

社会福祉法人 洛南福社会
管理職

今年度は、新型コロナウイルスの爆発的な感染により、前代未聞の特殊な状況であったが、幸いにも感染者を一人も出すことがなかった。

また、厳戒態勢の中、ご利用者への行動制限があるも、極力諦める事はせず、様々な思考を繰り返すことで、これまで以上のサービスを提供することができた。それに伴い、職員の仕事に対する姿勢に変化がみられた。

【重点目標】

1. 人材の確保・育成

- ・ 会議および委員会の目的や必要性を精査し、既存の委員会を整理できた。
- ・ 様々な委員会やプロジェクトにおいて基本に立ちかえり、「開催目的」を明らかにし、中身のある運営が行われた。
- ・ 「介護技術指導者研修」を開催し、これからの介護技術の習得について改めて意識できるようになった。
- ・ 階層別研修に、新たに「認知症」に関する研修を取り入れた。
- ・ 今年度も実習生を受け入れ採用に繋げることで、次年度の人材として、新卒の国家資格保有者を確保することができた。
- ・ 新たな取り組みとして奨学金制度を創設することができた。
- ・ 資格取得にむけて勉強会の開催や先輩職員の助言等により、介護福祉士の合格者を5名出すことができた。
- ・ コロナ禍においてオンラインでの会議や施設見学にも対応ができた。

2. 未来につながる事業運営

- ・ 認知症デイサービスの開設に向けてプロジェクトを立ち上げ準備を進めている。
- ・ 管理職の指導により、職員主導のもと今年度のような特殊な状況でも、ご利用者に楽しんでもらえるような新たな取り組みやイベントを企画・実行できた。
- ・ 介護などにテーマを設定し、施設内でのご利用者の生活環境について検討し、課題を見つけ、その中のいくつかを改善することができた。

3. 地域の安心となる拠点活動

- ・ 地域交流は、出来なかったが広告協賛などで協力することができた。
- ・ コロナで休止した事業所の利用者を受け入れるなど地域の安心となる暮らしの提供ができた。
- ・ 稼働については、社会資源としての役割を果たしきれずにいた。

令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 洛南福祉会
特別養護老人ホーム ヴィラ向島

感染対策を行いながら、利用者と共に行える屋内イベントに力を入れることで、生き生きとした姿と笑顔を見ることが出来た。

【令和2年度の取り組みについて】

1. 自由な発想

- ・エンターテイナー班に的を絞って、皆が一番盛り上がる運動会は年に2回の開催、今までイベントでしか実施していなかった映画上映やカラオケは、利用者の生活の一部となる程気軽に楽しめるようになった。

2. 地域との交流

- ・施設内で行っているイベントに関して、フェイスブックやインスタグラムを活用し外部へ情報の発信をすることが出来た。
- ・家族と交流の機会を増やせるよう、定期的に電話連絡やSNSを活用し、ご利用者の日常を伝えることが出来た。

3. 食生活の充実

- ・今まで人気だった献立を中心に、季節を感じられる食事を提供できた。
- ・食欲増進のため利用者が食べたい物を聞き取り、アイス・かき氷・焼き芋・おでん・どら焼き等、面前での提供をした。
- ・トロミ食の改善に向け、各職種で試食し意見を厨房に提案できた。

4. 専門知識の向上

- ・体位変換クッションの管理ボード作成、利用者体験、臥床時のポジショニングの検討を行い、知識習得の重要性を知ることで、治癒に向けての初動対応が出来るようになった。

【稼働率について】

- ・年間入院者数 65名(延べ人数 1169名)、前年度より7名減少している。
稼働率が上がらなかった理由としては、6月の長期入院者と退所者が7名。
10月では60床増床により、ともに稼働率80%台であった事が大きな要因であった。

令和元年度

平均稼働率 91.88 %
年間入所者 入所 16名 退所 16名

令和2年度

平均稼働率 92.3 %
入所 24名 退所 16名

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
ヴィラ向島 ショートステイ

関係事業所から収集した情報、ご利用者・ご家族から伺った情報を多職種と共有することでチームとしての連携が図れ、幅広いニーズに沿った柔軟なサービス提供を行った。

【令和2年度の取り組みについて】

1. ご利用者ニーズへの対応
 - ・ご利用者からの追加利用希望やキャンセル待ちに対して、出来る限り希望の利用日程をご利用いただけるよう、利用中に居室変更の提案を行った。
 - また、利用調整に期限を持たせることで、ケアマネとスムーズなやり取りが行えた。
2. サービスの質の向上
 - ・ご利用者やご家族から普段の生活の様子や自宅の環境に関する情報を集め、多職種で共有することでショートステイでの過ごしやすい環境を整備した。
 - また、自宅で快適に過ごせるように職員が収集した情報をご家族に提供することができた。
3. 行事の充実
 - ・特養と共に感染対策を行いながら、利用者と共にできる屋内イベント(運動会や納涼祭)に力を入れることで、生き生きとした姿と笑顔を見ることが出来た。
4. 食事の充実
 - ・今まで人気だった献立を中心に、季節を感じられる食事を提供できた。
 - ・食欲増進のため利用者が食べたい物を聞き取り、アイス・かき氷・焼き芋・おでん・どら焼き等、面前での提供をした。
 - ・トロミ食の改善に向け、各職種で試食し意見を厨房に提案できた。

【稼働率について】

・新規利用者が前年度よりも 16 名少ないことについて、10 月の特養増床に伴い、ショートステイが 10 床に減少したことで、新規依頼があるも空きベットを準備することが出来なかった。そのため、キャンセル待ちをお願いすると、定期利用希望者の利用が困難になるため、ケアマネより依頼を断られる事態となった。

●令和元年度

- ・平均稼働率：89.56%
- ・新規利用者：41 名

●令和 2 年度

- ・平均稼働率：86.57%
- ・新規利用者：25 名

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
ヴィラ向島デイサービスセンター

【令和2年度 事業報告】

コロナ禍で「サービス内容を縮小する、中止する」といった判断ではなく「コロナ禍でもできる事」を職員自らが考え行事やレクリエーションに反映することができた。今後は、ご利用者から好評を得た行事・レクリエーションを計画性・継続性をより充実させることで日々の変化をより感じることができるサービス提供を目指したい。

【重点目標】

1. 専門職としての技術、知識の習得

介護福祉士の合格者を3名輩出することができた。日々の業務を行いながら実務者研修の受講日の調整や試験に向けてのサポートなど部署全体として資格取得に向けた協力体制をとることができた。

2. 事業運営の安定化

コロナ禍で感染予防・対策、ご利用者・職員の健康管理に努めサービスを安定して提供することができた。また、積極的な体験利用、新規依頼、臨時利用・増回利用を受けることでご利用者、ご家族から「利用しやすいサービス」と認識され緊急事態宣言等の影響を受けることなく事業運営ができた。

3. 人材育成及び人材確保

コロナ禍の影響もあり、養成校、大学による実習中止があったなかでアルバイトにつなげることができた。本年度はデイサービスの実習から他部署へのアルバイトの学生が法人に就職することとなり人材確保の一端を担うことができた。また、昨年度に引き続き、離職者を出すことなく安定した人材で事業運営ができた。

【稼働率について】

令和元年度	営業日数	313日	令和2年度	312日
	総利用合計数	9735人	〃	9614人
	平均稼働率	88.86%	〃	88.04%
	平均人数(1日当り)	31.10人	〃	30.81人

※令和元年度と令和2年度を比較し、長年利用されていた週3回以上利用されていた方が長期入院、死亡されたことが利用数、稼働率に影響した。

令和 2 年度 事業報告書

社会福祉法人洛南福祉会
 ヴィラ向島居宅介護支援事業所

令和2年度事業計画は方針の通りに地域の様々な機関と連携しながら住み慣れた地域での生活を支える事が出来た。重点目標については概ね達成できているが、第三者評価については京都市実施指導と時期が重なったため、見送った。実地指導も減算、書面指導もなく終了している。地域の活動については、コロナウイルス感染拡大予防のため、参加は出来ていない。稼働状況については、地域包括支援センター、病院からの紹介や直接事業所へ連絡のあった新規依頼に対して即応する事により、上半期平均141件で事業目標達成している。11月から1名職員が追加し、包括支援センターからの委託、新規対応も継続して行っており、稼働も徐々に増やせている。

【稼働状況】

	令和 2 年										令和 3 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
居宅介護支援 給付管理件数	131	132	132	132	131	134	135	134	134	129	124	126	1574	
(内 訳)	要介護1(件)	34	33	30	33	36	35	36	35	35	34	37	38	
	要介護2(件)	50	54	54	53	51	55	57	58	60	57	56	55	
	要介護3(件)	28	28	30	30	29	30	29	28	25	25	22	23	
	要介護4(件)	13	11	12	11	10	9	7	8	9	8	6	7	
	要介護5(件)	6	6	6	5	5	5	6	5	5	5	3	3	
	要介護3~5(件)	47	45	48	46	44	44	42	41	39	38	31	33	
	要介護3~5(%)	35.9%	34.1%	36.4%	34.8%	33.6%	32.8%	31.1%	30.6%	29.1%	29.5%	25.0%	26.2%	
介護予防支援委託 給付管理件数 (0.5人計算)	9.5	10	9.5	9.5	9	8.5	8.5	8.5	8.5	15	17	17	130.5	
総件数	140.5	142.0	141.5	141.5	140.0	142.5	143.5	142.5	142.5	144.0	141.0	143.0	1704.5	
介護支援専門員数	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	4.5		
介護支援専門員数1名当たりの担当件数	35.1	35.5	35.4	35.4	35.0	35.6	28.7	28.5	28.5	28.8	28.2	31.8		
入院情報提供加算	2	7	8	6	4	3	7	5	9	6	3	0	60	
退院・退所加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
初回加算	7	1	4	2	6	3	1	2	3	0	1	3	33	

【認定調査依頼実施状況】

	令和 2 年										令和 3 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
坂元	1	0	2	0	2	1	1	1	2	0	0	2	12	
石原	0	0	0	2	0	1	0	1	2	0	0	1	7	
渡邊	3	0	0	2	1	2	1	0	1	0	2	2	14	
福井	1	3	1	1	0	1	1	3	0	2	0	0	13	
瀬川								0	2	0	5	1	8	
単月合計	5	3	3	5	3	5	3	5	7	2	7	6	54	

令和 2 年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
ヘルパーステーション ヴィラ向島
ヘルパーステーション ヴィラ観月橋

【令和 2 年度 事業報告】

前年度の人員不足が補えないまま新たな退職者、他部署への異動があったため、人員が安定せず収入が大幅に減少し、セーフティを達成することが出来なかった。コロナ禍もあり、人材確保のための就職フェアへの参加や実習生を受け入れることが出来なかったが、専門学校や初任者研修養成校に出向き訪問介護の仕事内容や魅力、事業所のアピールを発信することが出来た。

結果、下半期になり人材（パート職員 2 名）を確保することが出来た。

【取り組みについて】

人材の確保・育成

- ① 就職フェアや市老協ホームヘルプ部会としての取り組みはできなかったが、事業所として、初任者研修養成校に出向くことで訪問介護の魅力をアピールすることは出来た。
- ② 時間数の限られているパート職員にも対応することで、勤続年数の長いヘルパーが増えてきた。
- ③ コロナ禍のため実習生を受け入れることは出来なかったが、専門学校に出向き訪問介護の魅力をアピールすることができた。結果として人材確保には繋がっていないが、先生より興味を持った生徒が数名いた、と言われた。
- ④ 定期的なヒアリングを行い指導・育成することにより、新たにサービス提供責任者 1 名を育成することができた。

職員の資質向上

今年度はコロナ禍で密を避けるために、各事業所間でヘルパー会議を行った。法令研修をはじめとした研修を行うとともに個別検討に重点をおき、ご利用者の状態を把握することで、全員が知識と技術を身に付け、統一した援助に繋げることが出来た。

【令和元年度実績】

利用者件数

向 島：4,438 件

観月橋：4,328 件

金額 向 島：24,054,829 円

観月橋：21,685,999 円

【令和 2 年度実績】

利用者件数

向 島：4,034 件

観月橋：3,201 件

金額 向 島：20,806,522 円

観月橋：16,511,057 円

令和2年度 ヘルパー研修 実績

月	研修名	担当
5月（法令）	人権・プライバシー・個人情報	仲田
6月	ヘルパーの基本 ヘルパーが行える医療行為 介護マナー・接遇 ヘルパーが行っていい事・いけない事	植村H 和田H・梅田H
7月（法令）	褥瘡	仲田・住吉副主任
8月	介護保険制度の流れ	田中リーダー・小林H 岩本H・山形H
10月	疑似体験（向島）・個別検討（観月橋）	渋谷H・山本H 小島CH・金田H
11月（法令）	拘束（1回目）・虐待	仲田・田中リーダー
12月（法令）	事故（1回目）	仲田・田中リーダー
1月（法令）	拘束・事故（各2回目）（観月橋） 個別検討（向島）	田中リーダー
2月	疑似体験（観月橋） 個別検討（向島）	渋谷H
3月（法令）	拘束・事故（各2回目）（向島） 個別検討（観月橋）	仲田

令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 洛南福祉会
ケアハウス サウスヴィレッジ向島

洛南福祉会の「共に生き、笑顔で支えあう暮らしづくり」という法人理念に基づき、年間を通して基本方針に沿った活動ができた。「安心して快適な住まい」の提供をテーマに入居者懇談会での意見交換やアンケート等の実施により入居者の意見を取り入れた運営が出来た。一方で「入居者が地域交流できるきっかけと環境作り」に関しては、新型コロナウイルス感染症の流行により地域行事のほとんどが中止となり交流の場が無くなってしまった為取り組むことが出来なかった。

【令和2年度の取り組みについて】

1. 災害等に対する取り組み

昨年度から、避難時に入居者同士で安否確認をする事で迅速に避難できるよう取り組んできた。この行動が定着するよう今年度も継続して取り組むことができた。

2. 地域交流

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によって地域の行事のほとんどが中止となった。昨年度積み上げてきた地域交流の取り組みを継続することが出来なかった。

3. 入居者確保の為の広報活動の実施

新型コロナウイルス感染症が流行しており直接営業に出向く事が難しい状況だった。しかし、電話やパンフレットを郵送するなど京都市内の地域包括にアプローチすることができた。また、施設検索サイトからの問い合わせや見学があり、感染予防対策をした上で積極的に見学の受け入れを実施。稼働は維持できなかったが、自立度の高い入居者の確保が出来た。

4. 職員研修

法令研修は部署会議内で実施した。感染症の勉強会は個々で学べるように資料の確認とテストを実施し、認知症に関しては法人の研修に参加し、学ぶ機会を得る事が出来た。

5. 第三者評価受診

今年度の受診は延期した。積極的に地域交流が出来る状況になってから受診を検討する。

【稼働率について】

令和2年度

平均稼働率 99.5%
平均稼働床 49.75床

令和元年度

平均稼働率 100%
平均稼働床 50床

6. 入居者状況について(令和3年3月末調べ)

①年齢別・性別

在籍者50名のうち、男性16名(32%)、女性34名(68%)、男性が増加している。全体の平均年齢は84.0歳である。90歳以上が今年は13名と26%を占めている。入居・待機者共に高齢の方が多い傾向である。

年齢	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～100	計	平均(歳)
男	1	4	2	5	2	2	0	16	80.2
女	0	3	4	9	9	5	4	34	85.7
計	1	7	6	14	11	7	4	50	84.0

②今年度の入退去状況(表2)

入居は13名、退去は12名。入居の内、自立の入居者が5名、要支援1・2の介護度の低い入居者が4名、要介護の入居者が4名という内訳だった。紹介会社からの入居は、自立2名、要支援2名、合計4名だった。今年度は自立度の高い入居者が確保できたと言える。退去者に関しては、入院中に死亡されるケース、入院後ADLの低下によりケアハウス復帰が困難になり退所されるケース、認知症によりケアハウスでの生活が困難になり老健や有料老人ホーム、特養に入所されるケースが主だった。新規入居者については、入居前から介護保険のサービス調整をして入居直後から介護保険サービスを利用される方が増えているのが現状である。

表2 入退去の状況

	入居	退去	退去内訳			
			死亡	在宅復帰	他施設入所	その他
H29年度	18	17	2	3	12	0
H30年度	14	14	2	2	10	0
令和元年度	7	7	1	0	6	0
令和2年度	13	12	2	1	9	0

③介護度別状況(表3)

50名の内、自立が13名で全体の26%、約7割の入居者が要介護認定を受けており、介護保険のサービスを利用している。また、要介護3で特養への

申し込みをしている入居者や、要介護1や2でも週5日サービスを利用して
いる入居者もあり、ケアハウスで生活をするためにサービスを必要としている
現状と重度化が明らかである。

表3

介護度	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
人数	13	8	7	9	9	3	1	0

7. 年間行事報告

開催日時	行事内容	食事の内容	開催場所	参加人数
5月11日	喫茶	ティラミス	ケアハウス食堂	20名
8月2日	納涼祭	弁当	デイサービスフロア	38名
	花火大会		駐車場	
9月20日	敬老祝賀会	松花堂弁当	ケアハウス食堂	43名
	茶話会			33名
10月6日	喫茶	モーニング	ケアハウス食堂	14名
10月28日	食事ツアー		清和荘	5名
11月14日	喫茶	チーズケーキ	ケアハウス食堂	22名
12月23日	クリスマス会	ランチ	ケアハウス食堂	32名
12月24日	クリスマス会 (すばる高校吹奏楽部映像鑑賞)	ケーキ	会議室(映像鑑賞) ケアハウス食堂	23名
12月30日	もちつき大会	きなこ餅等	特養玄関	23名
1月1日	元旦	おとそ	ケアハウス食堂	
2月28日	寿司パーティー	にぎり寿司	ケアハウス食堂	40名
	喫茶	ぜんざい	ケアハウス食堂	26名
3月21日	お取り寄せ	ケーキ	ケアハウス食堂	32名
3月下旬	花見ドライブ		向島〜一口周辺	12名

定期行事

毎月：買い物ツアー
カラオケ/コーヒーの日
年4回：季節の食事

サークル活動

新型コロナウイルスの感染予防対策の為
ボランティアの受入れを中止。
サークル活動は休止。

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
元源深草

開所より2年半が経過し、継続的な新規獲得が行えており、年間稼働率も下がる事無く運営する事ができた。また、コロナ禍でも感染者を出す事なく、職員が率先していつもと変わらず笑顔で対応する事を心掛け、実践する事ができた。

重点目標1. ご利用者にとっての楽しみを追求する

入浴ではかわり湯（どくだみ湯など）の実施、個々のニーズに合わせ提供できており、「ここのお湯は最高」「他のデイサービス休んでもここは休めへん」等好評を頂いている。浴後の楽しみの一つとして、喫茶提供に関しても、ご利用者の声を聴きながら、甘酒やはちみつ生姜湯等、飽きの無いように提供する事ができた。新たな取り組み、花楽（生け花）の会を開催でき、ご利用者からも好評をいただいた。また、ご利用者ご本人から「脳トレをしたい」「この塗り絵をしたい」など自発的な言葉も多く聞かれ、それぞれの楽しみを提供できた。

ご利用者の安全にも注意し、職員間で情報共有を行い、大きな事故もなく過ごして頂く事ができた。

重点目標2. 地域連携の維持・拡大

今年度はコロナの影響により地域の会議等は中止になったが、すこやか学級などに参加し、地域住民へ事業所の広報をする事ができた。また、地域の診療所や病院からの紹介で新規獲得を行う事ができており、入浴特化のデイサービスとして認知度も上がっていると評価できる。

地域包括支援センター（醍醐北部、醍醐南部、深草北部、深草中部、深草南部、桃山、東高瀬川）、居宅介護支援事業所などの関係施設と連携する事ができた。

重点目標3. 稼働率90%以上を目標に、新規ご利用者獲得を目指す

・令和3年3月末時点での登録数は次の通り。

登録数 90 件、（年間新規登録者数…39 件）

法人内居宅 10 件・法人外居宅 63 件・包括支援センター17 件

今年度法人目標の80%は達成できなかったが、上半期77.91%、下半期80.90%とご利用者の状態変化による廃止がある中でも継続して新規を獲得する事ができた。今年度は入院者が多く、登録に対する稼働率が低下していた為、今後は入院者の調整を行いながら1単位16名の登録を目指す。

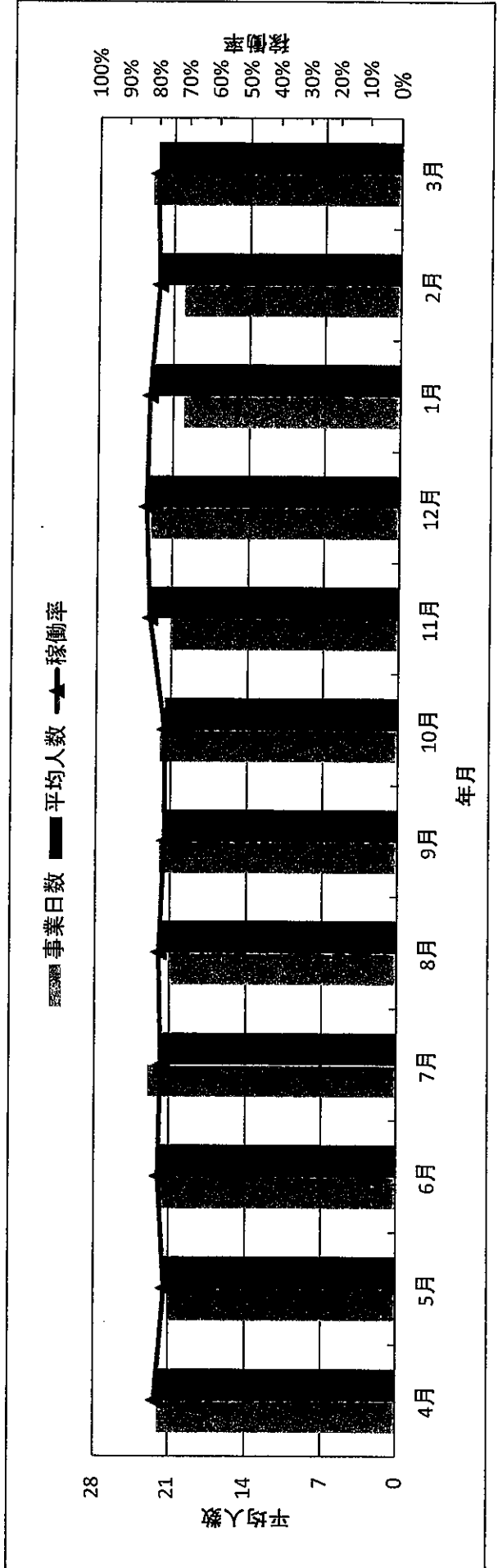
【稼働率について】	令和2年度	令和元年度
平均稼働率	79.41%	66.63%

令和2年度 元源深草 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	22	21	22	23	21	22	22	21	23	20	20	23	260	21.67
平均人数	22.27	21.38	22.00	21.74	22.00	21.50	21.55	23.00	23.39	23.15	22.30	22.52		22.23
稼働率	79.55%	76.36%	78.57%	77.64%	78.57%	76.79%	76.95%	82.14%	83.54%	82.68%	79.64%	80.43%		79.41%
合計人数	490	449	484	500	462	473	474	483	538	463	446	518	5780	481.67
31年度 合計人数 差	188	96	163	106	97	94	0	42	62	8	16	44	916	12.78%↗

平成31年(令和元年)度 元源深草 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	22	23	20	23	22	21	23	21	22	22	20	22	261	21.75
平均人数	13.73	15.35	16.05	17.13	16.59	18.05	20.61	21.00	21.64	20.68	21.50	21.55		18.64
稼働率	49.03%	54.81%	57.32%	61.18%	59.25%	64.46%	73.60%	75.00%	77.27%	73.86%	76.79%	76.95%		66.63%
合計人数	302	353	321	394	365	379	474	441	476	455	430	474	4864	405.33



年間行事報告

9月	敬老会
12月	クリスマス会
2月	バレンタインイベント
3月	ホワイトデーイベント
お楽しみ企画：花楽の会（2月）	
※毎月のお楽しみ企画 ・変わり湯の日（1日・10日・26日）	

研修・勉強会

法令研修	10月	褥瘡予防について
	7月/8月	事故予防について（2回）
	5月	人権・プライバシー・個人情報について
	6月/8月	身体拘束について（2回）
感染対策研修	5月	手洗い
	6月	食中毒
	10月	インフルエンザ
	11月	ノロウィルス・レジオネラ
	1月	新型コロナウイルス感染症
法人研修	10月/3月	プリセプター研修
	11月/12月	認知症研修（中級）
	2月	認知症研修（上級）
	8月/10月/2月	介護技術

令和 2 年度 事業報告書

社会福祉法人洛南福祉会
ケアプランセンターあかつき

令和2年度事業計画は方針の通り、行政機関や各地域包括支援センター、医療機関との連携を図れた事もあり、ターミナルケアが必要な方の依頼も多数あり在宅生活を支えることができた。元源深草とともに地域活動にも積極的に参加する予定ではあったが、コロナウイルス感染拡大予防の観点により開催されておらず、参加には至っていない。

10月から3名体制人員配置の変更により特定事業所加算Ⅱの算定を取り下げた。3名体制となり、下半期平均33.8件、年間通して介護支援専門員1人あたり31.3件を達成できた。

【稼働状況】

	令和	2 年									令和 3 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
居宅介護支援 給付管理件数	111	105	108	110	114	112	98	96	92	94	92	89	1221	
(内 訳)	要介護1(件)	24	24	26	29	32	35	27	26	24	25	25	25	
	要介護2(件)	45	41	39	40	41	40	35	35	35	34	29	29	
	要介護3(件)	27	26	28	27	27	24	21	22	20	21	21	19	
	要介護4(件)	8	11	11	10	10	10	13	11	11	11	14	13	
	要介護5(件)	7	6	4	4	4	3	2	2	2	2	3	3	
	要介護3~5(件)	42	43	43	41	41	37	36	35	33	34	34	35	
	要介護3~5(%)	37.8%	41.0%	39.8%	37.3%	36.0%	33.0%	36.7%	36.5%	35.9%	36.2%	37.0%	39.3%	
	介護予防支援委託 給付管理件数 (0.5人計算)	7.5	7.5	6.5	8.5	8.5	8	8	8	8	8	8	8	94.5
総件数	118.5	112.5	114.5	118.5	122.5	120.0	106.0	104.0	100.0	102.0	100.0	97.0	1315.5	
介護支援専門員数	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3		
介護支援専門員数1名当たりの担当件数	29.6	28.1	28.6	29.6	30.6	30.0	35.3	34.7	33.3	34.0	33.3	32.3		
入院時情報提供加算	5	9	7	6	3	5	4	5	1	5	4	3	57	
退院・退所加算	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
初回加算	6	4	1	5	1	4	0	0	0	2	1	2	26	

【認定調査依頼実施状況】

	令和 2 年										令和 2 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
池垣	1	0	5	0	2	1							9	
廣瀬	2	0	1	1	1	2	2	0	1	0	1	0	11	
佐藤	2	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6	
河村	3	3	2	1	1	0	1	4	0	1	0	2	18	
単月合計	8	4	9	2	4	3	3	4	3	1	1	2	44	

15

令和2年度事業報告書

社会福祉法人 洛南福祉会
京都市向島地域包括支援センター

【総括】

法人理念である『共に生き、笑顔で支えあう暮らしづくり』を念頭に置き、『地域包括ケアシステム』の構築を目指して取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大の影響から地域福祉組織やサービス事業所などの関係機関と地域活動を積極的に取り組むことはできなかったが、個別支援や全戸訪問活動は継続して行い、これまで継続してきた「認知症独居高齢者を主とした高齢者の支援のネットワーク構築」が途切れないように支援を継続してきた。

【重点目標】

(1) 総合相談支援業務

○経験件数の浅い職員も多い中、高齢分野のみに限らず障害、生活福祉、世帯における支援等様々な相談支援において、各職員が情報共有を図りながら、ワンストップサービスが提供できるように取り組んだ。

(2) 権利擁護業務

○ネットワークを通じた地域や個別ケースの実態把握・課題抽出を進め、必要なサービスに関する情報提供などの初期相談に応じることができた。

○消費者被害やコロナの還付金詐欺などの情報は、各学区の地域ケア会議で周知を図った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○居宅の介護支援専門員やサービス事業所等からの日常的相談対応や支援困難事例への協力など、個々の事例に応じて後方支援を行った。

○感染対策を講じながら、向島圏域の介護支援専門員（13事業所）に参加いただき、支援困難ケースの初動対応についての事例検討会を行なった。

(4) 介護予防ケアマネジメント

○新型コロナウイルス感染拡大により地域の関係者とともに、地域における高齢者の居場所作りや介護予防普及啓発活動に努めることはできなかった。

(5) 全戸訪問事業

○新型コロナウイルスの感染拡大により、例年通りの訪問活動は行えなかったが、地域福祉組織や消防と連携を図り、独居高齢者へのアプローチを計画的に取り組み、実態把握に取り組むことができた。

(6) 各関係機関との連携業務事業

○地域の方々と“顔の見える関係づくり”を目標に地域ケア会議の開催や地域で行われた「むかいじままつり」や「むかいじままちづくりビジョン」などに参加し、関係構築に努めた。

令和2年度 事業実績

社会福祉法人洛南福祉会
京都市向島地域包括支援センター

【稼働状況】

	令和 2 年										令和 3 年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護予防支援 給付管理件数	230	228	242	250	251	254	250	243	239	240	245	251	2923	
介護予防ケアマネジ メント事業	118	112	115	116	111	115	113	114	111	104	104	100	1333	
	348	340	357	366	362	369	363	357	350	344	344	351		
(内訳)	要支援1	95	90	89	99	97	103	102	97	93	93	105	105	1168
	要支援2	252	249	266	265	263	264	260	259	256	250	238	245	3067
	事業対象者	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	16
	合計	348	340	357	366	362	369	363	357	350	344	344	351	4251
	委託	105	99	99	100	102	98	93	92	96	100	96	89	1169
	初回	6	10	15	9	5	10	4	9	4	8	8	7	95

【新規相談状況】

新規介護申請(全体)	13	11	28	24	26	25	14	19	16	16	17	24	233	
内 代行申請	6	8	17	17	18	13	9	9	10	7	13	12	139	
(内訳)	要支援1	5	4	12	7	8	14	7	7	7	6	6	1	84
	要支援2	4	2	8	10	9	6	5	9	6	5	5	15	84
	要介護	3	4	8	7	9	5	2	3	3	5	5	8	62
	非該当	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	認定待ち	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【全戸訪問事業】

令和3年度 向島地域 独居高齢者 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)						
全体	3197 名(+ 103 名)					
学区	向島	向島南	二ノ丸	二ノ丸北	藤ノ木	合計
65～74歳	207	341	342	171	244	1305
75歳～	364	517	456	209	346	1892
全人数	571	858	798	380	590	3197

【地域支援事業】

地域ケア会議(個別)	0	0	0	1	0	1
地域ケア会議(学区)	2	3	2	2	2	11
日常生活圏域	中学校圏域(2か所)×2回=4回					

●運営推進会議の参加(書面含む)(前期:12回・後期:11回 合計23回)

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
特別養護老人ホーム レーベン横大路

法人理念を具現化するために、ご入居者の個性を尊重し、その方の能力や生活背景、および健康状態に視点を向けることで安心できる生活環境を作り、その人らしい生活が送れるように関わりを持つことを意識し、支援を行った。また、感染症対策を強化することで、ご入居者・職員共に罹患者を出さなかった。

【取組内容】

1. 稼働率の安定化

- ・年間平均稼働率は92.5%と目標の96%に届かなかった。
- ・入院による空床日数が前年度比2.5倍に増えた。内部疾患による入院が90%を占めており平均入院日数は29.9日であった。

2. サービスの質の向上

- ・入院をしたご入居者が退院時に身体機能が低下しているケースが多かったが、生活リハビリを行う中で退院時より身体機能を向上することができた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、ご家族と直接会ってご入居者の情報共有をする機会が少なくなったが、オンラインの面会や個別面会など、ご入居者とご家族を繋げる環境の提案をすることができた。
- ・コロナ渦における「楽しみ」や日常的な「喜び」の共有に関しては、一人ひとりに合わせた対応については課題が残るものの、施設内でできることを提案することができた。

3. 人材の確保、育成、定着

- ・実習受け入れを通して人材確保には至っていないが、職員の指導力のスキルアップを図ることができた。
- ・新人育成計画をより具体化した指導マニュアルを作成し、指導担当職員以外でも情報共有ができるようシステムを作ることができた。
- ・外部研修が中止となるが多かったが、オンライン研修を受けられる環境を整えることができた。

4. 地域との連携

- ・対面での運営推進会議は開催できなかったが、書面にて意見交換を行うことができた。
- ・ご入居者が直接地域交流に出向くことはできなかったが、児童館へのカレンダー作りやイベントへのおやつ提供など、関わりを継続させることができた。

【稼働率について】 令和2年度 平成31年度

月平均稼働率 92.50% 96.48%

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福社会
レーベン横大路ショートステイ

法人理念を具現化するために、ご利用者の個性を尊重し、その方の能力や生活背景、および健康状態に視点を向けることで、場所が変わっても安心して生活できる環境を作り、在宅生活を継続できる関わりを意識した。

1. 稼働率の安定化

- ・年間平均稼働率は89.3%と目標の94%に届かなかった。
- ・関係する居宅介護支援事業所の件数は増えているものの、新規利用者数は前年度と比較して30名減となっている。
- ・利用キャンセルが出た際に追加利用の提案したが、キャンセルによる空床を埋めることができなかった。

2. サービスの質の向上

- ・新型コロナウイルス感染症対策によりサービス担当者会議が文書照会になりご家族と会って情報共有する機会が減少した。利用前の事前連絡や利用中の様子を書いた手紙で以前以上に情報共有を行った。
- ・ご利用者やご家族が求めているサービス内容を多職種間で共有する難しさはあったものの、繰り返し検討を行うことはできた。
- ・コロナ渦での楽しみの提供として以前のような「大勢で楽しむ」ということができなくなったが、少人数でのドライブや出前食の選択・提供を楽しんでいただくことができた。
- ・外部研修が新型コロナウイルス感染症予防のため、中止となるが多かったがオンライン研修の環境を整えることができた。

3. 介護保険サービス事業所との連携強化

- ・外部研修や連絡会の中止により、例年と比べ事業所間で情報共有を行う機会は少なかったが、他法人のショートステイ事業所とのご利用者についての情報共有は積極的に行うことができた。
- ・月1回は事業所に出向き情報交換を行っていたが、対面で情報交換を行う機会が少なくなった。対面以外での情報交換の機会を増やすことが課題としてあがった。

【稼働率について】	令和2年度	平成31年度
月平均稼働率	89.36%	93.47%

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
レーベン横大路 デイサービスセンター

ご利用者の「声」を大切にしながら、ワクワクしていただけるような取り組みを検討・実施した。

1. ご利用者の「声」を大切に

- ① コロナの関係で今までボランティアを活用していたイベントや行事の出し物を職員が実施することで、ご利用者の好反応や職員の達成感が大きかった。リクエスト食等ご利用者のニーズを献立表に活かすことも年間通して対応することができた。
- ② 認知症や多様なケースの対応ができるよう、日々のミーティングの中で検討し、すぐに実践し振り返ることを意識し取り組むことで『ご利用者理解』を深めることができた。法人研修は8割の職員が参加し基本を振り返る機会となった。

2. 地域連携の維持・拡大

- ① コロナ渦でも、関係各所への連絡を積極的に行い、事業所のアピールや他事業所の情報を得ることができ、取り組みのヒントにもなった。
- ② 新型コロナウイルス感染予防の為、伏見区事業者連絡会作品展、レーベン横大路作品展・保育園との交流等が中止となった。定期的に連絡をとり次年度の活動予定も計画することができました。

3. 定員枠上限までを目標に利用者獲得・稼働の安定

- ① 令和2年3月末時点の登録数は次の通り。

【稼働率について】	令和2度	令和元年(31年度)
月平均稼働率	85.99%	90.24%

登録数 68件(内新規 20件) 法人内居宅 24件・法人外居宅 32件・包括支援センター4事業所 12件 複数回のご利用の方が66%と多いのが特徴。体験や新規の依頼も対応できたが、入所や入院者が多かった。

4. 人材育成及び人材確保

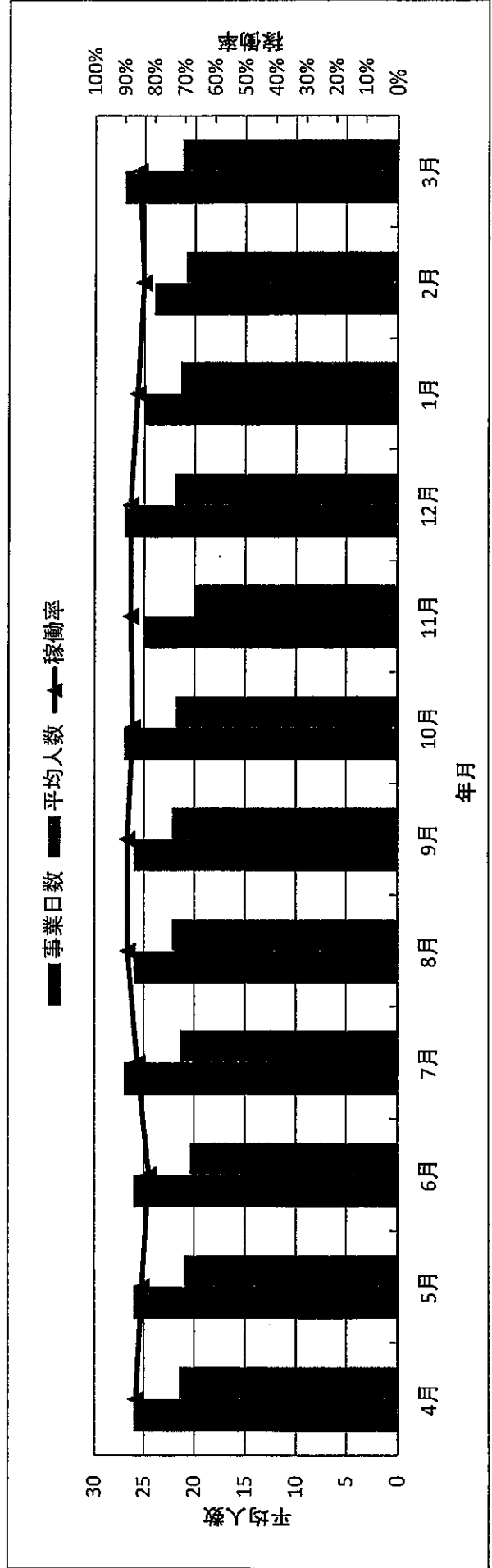
- ① 感染予防に努めながら実習生の受け入れ、実習生の特徴を教員と意見交換することで、実習中の関わりの参考になり、実習生から「緊張したけど楽しくできた」という意見も聞いた。
- ② 人材確保については、退職・入職と体制が落ち着かない1年であった。職員間では、「自分たちの意見を言おう」と話す機会を持ち、検討や共有に努めることができた。職員体制が厳しい状況でも、法人内通所サービスの連携体制もあり、大きな事故なく対応することができた。

令和2年度 レーベン横大路サービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	25	24	27	312	26.00
平均人数	21.50	21	20.42	21.40	22.20	22.20	21.80	20.00	22.00	21.4	20.88	21.26		21.50
稼働率	86.00%	84.00%	81.69%	85.50%	88.80%	88.90%	87.10%	87.84%	87.90%	85.60%	83.50%	85.04%		85.99%
合計人数	559	546	531	577	577	578	588	549	593	535	501	574	6708	559.00
RI年度 合計人数 差	-8	-10	-24	-44	-36	10	-10	-42	-17	-73	-66	-22		

令和元年度 レーベン横大路サービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	26	25	26	313	26.08
平均人数	21.81	20.96	22.20	23.00	22.70	22.70	22.15	22.73	23.46	23.38	22.68	22.92		22.52
稼働率	87.23%	83.85%	88.80%	92.00%	90.80%	90.90%	88.59%	90.92%	93.85%	93.54%	90.72%	91.69%		90.24%
合計人数	567	556	555	621	613	568	598	591	610	608	567	596	7050	587.50



年間行事

4月	お花見ドライブ(桜)
9月	敬老祝賀会 ・ レーベン祭
12月	クリスマス会
3月	作品展→延期
<p>※毎月のお楽しみ企画をイベントとして実施します。 食事：面前提供・リクエスト食(月4～5回)・焼き焼き祭り・お鍋祭り お楽しみ企画：花の会(毎月15日) かわり湯(毎月26日) 横大路保育園との交流(7月：七夕 12月：もちつき 3月：ひな祭→中止)</p>	

研修・勉強会

法令研修	9月	褥瘡予防について
	7月/2月	事故予防について(2回)
	6月	人権・プライバシー・個人情報について
	8月/2月	身体拘束について(2回)
感染対策研修	5月	手洗い
	6月	食中毒
	10月	インフルエンザ・レジオネラ
	11月	ノロウイルス
	1月	新型コロナウイルス感染症
法人研修	10月/3月	プリセプター研修
	11月/12月	認知症研修(中級)
	2月	認知症研修(上級)
	8月/10月/2月	介護技術
施設内研修	10月	防災研修
部署勉強会	12月/1月/2月	デイサービスとは

令和 2 年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
元 源

ご利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていただける為に、各事業者と情報交換を密にすることができた。ご利用者と関わる時間を大切に、「楽しさ」や「心地よさ」を自然に感じて頂ける空間作りができた。

1：自分も大切にし、相手も尊重する意識

- ① 昨年末のご利用者満足度調査の結果や日々の関わりの中で、楽しみを持っていただく工夫として、喫茶メニューの充実を日々の楽しみの一つとして実施することが出来た。入浴では 2 年目に入った緑茶風呂、アヒル風呂を継続して行うことが出来た。七夕イベントは大きな笹に願い事を書いて飾り、ご利用者と職員が共に楽しめるイベントとなった。

○入浴以外の楽しみ企画は以下の参加状況

内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均人数
花楽の会		12	9	7	13	10	12	11	12	9	9	14	10	11.6 名
出張パン販売		7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	5	6	6.5 名
和菓子の日(2日)		41	—	40	38	45	41	44	40	—	48	44	45	42.6 名

毎月の予定を掲示することで、より楽しみを持っていただく事が出来た。

○3年連続皆勤の方が7名もおられ、意識の高さが伺えた。

皆勤賞	上半期	下半期	1年間	3年連続
平成31年度	29名	28名	17名	7名
令和2年度	25名	31名	19名	

- ② 法人研修の参加率は 100%で意識の高さが伺えた。職員が疑問に思うことは日々のミーティングや金曜日の井戸端会議の議題に出すことで、職員間の情報の共有ができた。

2：地域連携の維持・拡大

今年度は新型コロナウイルス感染予防に伴い、運営推進会議は資料による情報提供を行った。こども園との交流も感染予防の為、電話での情報交換を行った。

3：定員枠上限までを目標に利用者獲得・稼働の安定に努める

令和3年3月末時点の登録数は次の通りです。登録数 91 名

- ・法人内居宅 14 件・法人外居宅 19 事業所より 44 件
- ・包括支援センター4 事業所より 33 件

常に通所 4 センターで情報の共有を行い、営業活動の参考とすることができた。

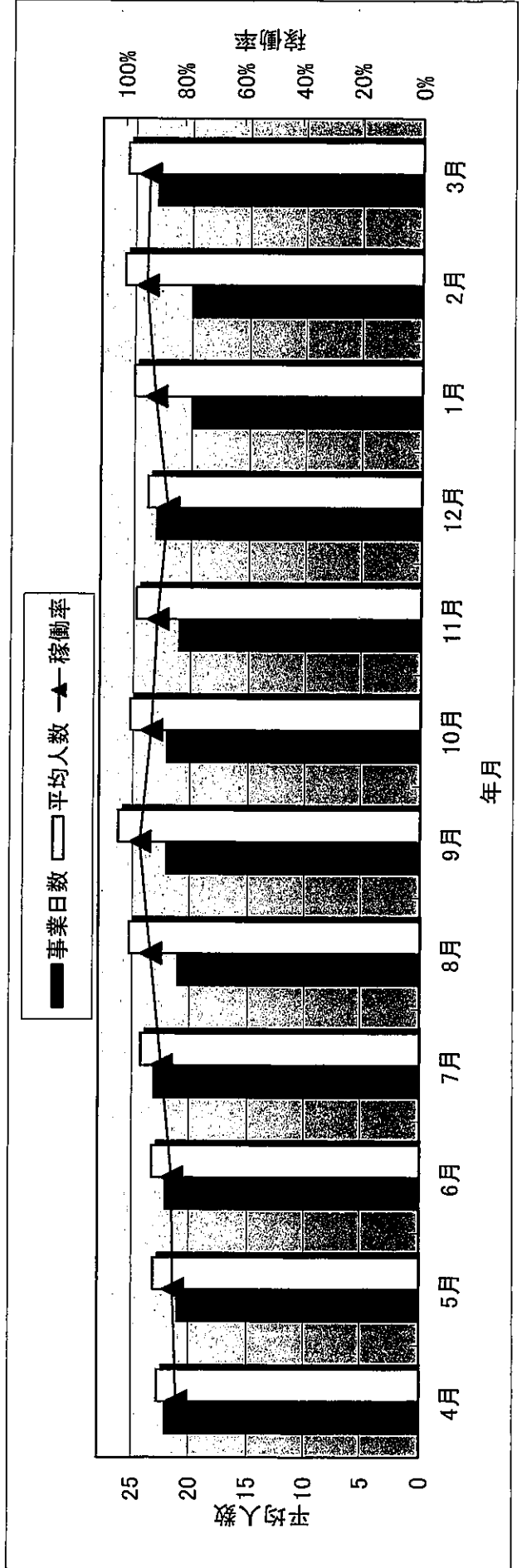
【稼働率について】	令和 2 年度	平成 31 年度
月平均稼働率	87.77%	91.03%

令和2年度 元源 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	22	21	22	23	21	22	22	21	23	20	20	23		21.67
平均人数	22.73	23.05	23.18	24.17	25.24	26.27	25.23	24.71	23.78	25	25.90	25.65		24.58
稼働率	81.17%	82.31%	82.79%	86.34%	90.14%	93.83%	90.10%	88.27%	84.94%	89.29%	92.50%	91.61%		87.77%
合計人数	500	484	510	556	530	578	555	519	547	500	518	590		532.25
R2年度 合計人数 差	-26	-105	-12	-25	-19	33	-33	2	-27	-77	-9	35		-21.92

平成31年度 元源 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	22	23	20	23	22	21	23	21	22	22	20	22		21.75
平均人数	23.91	25.61	26.10	25.26	24.95	25.95	25.57	24.62	26.09	26.23	26.35	25.23		25.49
稼働率	85.39%	91.46%	93.21%	90.22%	89.12%	92.69%	91.30%	87.93%	93.18%	93.67%	94.11%	90.10%		91.03%
合計人数	526	589	522	581	549	545	588	517	574	577	527	555		554.17
R1年度 合計人数 差	48	67	34	90	44	134	76	22	84	69	39	30		61.42



24

行事・イベント計画

7月	七夕イベント
9月	敬老のお祝い
12月	クリスマスイベント

他、企画として

花楽の会・和菓子の日・パン販売・皆勤賞の実施・季節風呂・変わり湯・緑茶風呂・アヒル風呂

研修・勉強会

法令研修	9月 褥瘡予防について
	7月・2月 事故予防について(2回)
	6月 人権・プライバシー・個人情報について
感染対策研修	8月・2月 身体拘束について(2回)
	5月 手洗い
	6月 食中毒
	10月 インフルエンザ・レジオネラ
	11月 ノロウイルス
法人研修	1月 新型コロナウイルス
	10月・3月 プリセプター研修
	8月・10月・2月 介護技術
	11月・12月 認知症研修(中級)
施設内研修	10月 防災研修

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 洛南福祉会
レーベン横大路居宅介護支援事業所

【 令和2年度 総括 】

新型コロナウイルスの影響が大きい1年だった。感染予防を徹底し、陽性者が発生する事なく過ごすことができた。一方で、他事業所の事例を踏まえ、陽性者や濃厚接触者など、ご利用者へ専門職としてどう対応すべきか考えさせられる場面が多かった。

【 重点目標 】

1. 尊厳と法令遵守

内部研修で「専門職倫理」「自主点検表」の内容共有を図り、法令遵守を徹底した結果、11月の実地指導では適正運営の評価が得られ、毎年度末の「利用者満足度調査」では約9割のご利用者からご好評いただいた。

2. 運営の向上と専門性の向上

新規相談は年間72件(前年比+16件)と一定の営業結果が得られたが、稼働実績は前年を下回る結果となった。原因は暫定(新規や区分変更)ケースが結果、稼働しない事や既存のご利用者が施設入所等で終了する事も多かった。また、外部研修は中止される事が多かったが、年度後半からはオンラインで実施され、可能な範囲で参加し専門性向上に取り組んだ。

3. 地域貢献への取り組み

地域住民活動はほぼ中止されたがオンラインで「久我の杜地域ケアマネ連絡会」「居宅管理者会議」「専門職部会」に参加し連携を図った。

4. 防災意識を持ち、災害発生に備える

施設内の防災委員会やマニュアル訓練・BCP研修へ参加した。また、部署内でも「居宅介護支援事業所としてできる事」と題して研修を実施した。

5. 働きやすい職場環境づくり

情報共有や意見交換は年間を通じて取り組んだ。特にご利用者から頂いた意見をもとに部署内で事例検討を行い「ケアマネの孤立や悩み」について話し合った。さらに「NO残業day」の増回や有給休暇取得を奨励した。

【稼働件数】

令和元年度平均稼働率	介護 120.17 人	予防 28.17 人	合計 133.83 人
令和2年度平均稼働率	介護 119.58 人	予防 24.67 人	合計 131.67 人